

税200万円知人が立て替え

神田前副大臣が滞納、未返済

固定資産税の滞納問題で

財務副大臣を辞任した自民党の神田憲次衆院議員(60)

＝愛知5区＝が2012年の衆院選に立候補した当時、自動車税など約200万円分を滞納し、知人の男性税理士(61)が立て替えていたことが分かった。男性は催促したが、現在も返済されていないという。

男性は、神田氏が初当選した12年の衆院選を手伝った際、税の滞納がないか神田氏に確認したところ、自動車税や個人事業税、住民税などの未払い納付書が見つかった。神田氏が「払えない」と言ったため、代わりに納付した。その後、立て替えた分も含め約200万円ほどに上るが、神田氏から返済はなく、電話もつ

ながらなくなったという。神田氏とは大学院時代の知人で、神田氏が代表取締役を務める会社の取締役に名を運べるが、5年以上会っていないという。

本紙は神田氏に確認を求めたが、コメントは得られなかった。

愛知5区は次期衆院選から名古屋市中村区、中川区、清須市で構成する。

神田憲次衆院議員は14日、国会内で記者団の取材に「引き続き反省の上に立って、一議員の立場から国家のために一生懸命精進していく」と述べ、野党が求める議員辞職は「考えていない」と否定した。滞納については「断腸の思いで、おわび申し上げなければならぬ」と改めて謝罪した。

辞表を提出した理由に関しては「岸田政権が進める経済対策の審議に支障が出ることは本意ではない」と強調。「税金を所管する官庁の副大臣として資質に欠けるとの批判を真摯に受け止め、職を辞することとした」と語った。

議員辞職「考えていない」

自身が代表取締役を務める会社の営業実態を巡り、国会で虚偽答弁をした疑いが文春オンラインで報じられたことについては「(報道機関の)何社かから質問が来ている。これにはきち

んと回答しようと思ってる」と説明。「虚偽答弁ではなく、運営実態もあるのか」との問いには「はい」と答えた。